

平成23年度事業報告

1. 補助金等事業

公益財団法人畠山文化財団助成金事業

『元興寺文化財研究所研究報告 2011』刊行

科学研究費補助金等による研究活動や、主として国・地方公共団体から受託した文化財の保存処理・修理事業や調査事業で取り扱ってきた資料を基にした研究活動の成果を「元興寺文化財研究所研究報告2011」として、1,300冊刊行した。

配布予定先は全国の図書館、大学・研究機関、研究者等である。

助成金額 200,000円

奈良県補助金事業

秋季特別展の開催

『極楽行きのタイムカプセルー火葬蔵骨器の世界ー』（入場者数 5,880 名）

開催期間 平成23年10月22日(土)～11月6日(日)

開催場所 元興寺第二収蔵庫3階

記念講演 「納骨信仰の展開」藤澤典彦氏（元大阪大谷大学教授）

平成23年10月30日(日) 元興寺国宝禅室内

※(宗)元興寺と共催（担当：研究部）

仏教式の火葬が日本に導入されて1300年以上が経過した。導入当初は、皇族や貴族、地方では豪族の一部に限られていたが、平安時代後期に高野山への納骨が始まって普及した。鎌倉時代以降徐々に導入する階層が拡大し、室町時代頃には地域の小さな領主層にまで広がった。江戸時代は土葬に回帰する例も多いが火葬も行われており、明治以降は法律で火葬が奨励されたこともあって、国民のほとんどに広がる結果となった。

今回の展示では、この流れを蔵骨器を通じて説明した。各時代の火葬受容の背景と、墓を作るという行為の広がりを理解していただけたと考えている。

主な出陳物

奈良時代から現代までの火葬蔵骨器約60点を展示

白川火葬墓、高野山奥之院火葬墓、化野遺跡、元興寺極楽坊、難波宮遺跡ほかの各出土品

補助金額 200,000円

(2) 保存科学研究室

・分析業務など

東京文化財研究所	醍醐寺三宝院(京都市)の顔料分析
PNO太陽の船復原研究所	クフ王第2の太陽の船の分析、指導(エジプト)
鳥取県埋蔵文化財センター	青谷上寺遺跡出土琥珀の産地同定
敏馬神社(神戸市)	絵馬の顔料分析
近つ飛鳥博物館(大阪府太子町)	大修羅の保存状態調査

その他、沖縄県海洋文化館の環境調査、(財)北海道埋蔵文化財センターの福山城下町遺跡出土漆製品等の分析、愛知芸術文化センターの木村定三コレクションの調査研究業務などを行っている。

(3) 人文科学研究室

奈良県総本山長谷寺	文化財調査整理事業(継続中)
(財)大和文化財保存会	奈良県内寺社所有の版木調査(継続中)
大阪府泉南市	文化財状況調査(継続中)
大阪府堺市	清学院資料整理事業
香川県	遍路寺院の史跡指定に係る根香寺詳細調査
奈良県橿原市	今井町豊田家所蔵歴史資料整理事業
奈良県緊急雇用事業	民俗文化財写真デジタル化推進事業

継続して行っている長谷寺などの什宝類文化財調査は、平成23年度も引き続いて実施し、通算5冊目となる整理報告書として『豊山長谷寺拾遺』第四輯之一宋版一切経を刊行した。(財)大和文化財保存会の補助事業である奈良県内寺社所蔵の版木調査は、室生寺をおこなった。大阪府泉南市の文化財総合調査は7年度目にあたり、本年度も実施した。

大阪府堺市の清学院資料の整理事業は、旧修験寺院文化財の調査整理を実施した。

香川県の遍路寺院の文化財詳細調査は、四国第82番札所根香寺にて実施した。

橿原市今井町豊田家所蔵歴史資料整理事業は、民具資料を中心とした整理作業を3年計画で実施している。

奈良県緊急雇用事業として民俗文化財写真デジタル化推進事業を実施した。

(4) 考古学研究室

奈良県橿原市	奈良県立橿原考古学研究所
	緊急雇用創出事業による出土遺物整理活用事業
奈良県奈良市	埋蔵文化財出土遺物整理作業
奈良県橿原市	大藤原京右京北三条五坊整理事業

(6) 記録資料調査修復室

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）	所蔵資料の状態調査 堺大絵図の修復
島田市立博物館（静岡県）	古文書の修復
安芸市立歴史民俗資料館（高知県）	絵図の修復
南方熊楠記念館（和歌山県白浜町）	所蔵資料の修復
須坂市立博物館（長野県）	扁額の修復
尼崎市立地域研究資料館（兵庫県）	公文書の修復
大阪国際大学（大阪府枚方市）	白樺樹皮文献の保存処理
大分県杵築市	東光寺出土経巻残片の保存処理
堺市立図書館（大阪府）	古文書等整理事業

文書・絵図類の修復事業は漉嵌法^{すきぼめほう}を中心に進めており、国立歴史民俗博物館、島田市立博物館、安芸市立歴史民俗資料館、南方熊楠記念館などの所蔵資料修復を実施した。国立歴史民俗博物館の堺大絵図は平成24年度の企画展にて展示される予定である。また須坂市扁額の絹本の修復、尼崎市公文書の修復、大阪国際大学より委託されたモンゴル国出土資料の白樺樹皮文献の強化処理、杵築市の出土経筒の中の経巻残片の展開・補修などを実施した。

調査事業は、平成18年度より開始した国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査を引き続き行なっており、平成21～23年度は金沢地方近代生活資料の状態調査を完了した。また平成22～24年度の3か年で実施した堺市立図書館データベース作成事業（ふるさと雇用再生基金事業）においては、目録作成、マイクロ撮影、古文書の修復が完了した。

(7) 彩色資料修復室

敏馬神社（兵庫県神戸市）	神戸市指定文化財敏馬神社船絵馬の保存修理
--------------	----------------------

(8) 木器保存研究室

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館（福井市）	重要文化財一乗谷朝倉氏遺跡出土品保存修理
岩手県平泉町	重要文化財平泉遺跡群出土品保存修理
出雲大社（島根県出雲市）	重要文化財出雲大社境内遺跡 ^{おおやしろけいだい} （旧本殿跡）出土品保存修理
奈良県立橿原考古学研究所	御所道路南第4区（中西遺跡）出土エノキ切り株の保存処理
岡山県岡山市	岡山県古代吉備文化財センター 岡山後楽園 ^{かこう} 花交 ^{いげ} の池木樋管 ^{ひかかん} 保存事業

国の指定文化財の修理としては、平成22年度から3か年計画で奈良県奈良市東大寺の国宝金堂鎮壇具出土品の保存修理を行っており、平成23年度は引き続き漆皮箱片とガラス玉類・琥珀玉類の修理を行った。

また、平成22年度から文化庁所有の重要文化財家形埴輪・壺形埴輪（大阪府八尾市美園町美園古墳出土）の保存修理を行っており、平成23年度は家形埴輪1点、壺形埴輪2点の修理を行った。

また、平成23年度から5か年計画で文化庁所有の重要文化財福岡県栗田遺跡祭祀遺構出土品の保存修理が始まり、本年度は甕棺1点の修理を行った。

その他、弥生文化博物館所蔵の猪牙製垂飾の保存修理、三重県津市薬師谷古墳出土の琥珀玉の保存修理等を行った。

受託調査研究事業実績額 493,157千円

3. 自主調査研究事業

(1) 対外研究交流の推進

奈良国立博物館 評議員会評議員（辻村）
宗教学人圓教寺性空上人調査委員会委員（狭川）
奈良文化財研究所客員研究員（狭川）
文化遺産保護協力事業委員会委員（狭川）
三重県石造物調査推進会議 石造物調査指導員（狭川）
全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会役員（狭川）
国立民族学博物館集団研修博物館学集中コース運営委員（植田）
文化財保存修復学会誌編集委員（植田）
日本文化財科学会理事（植田）
奈良女子大学古代学学術センター特任教授（植田）
京都の民俗総合活性化プロジェクト実行委員会（植田、川本、山田(卓)）
人間文化研究機構連携研究員（金山、角南）
堺市文化財保護審議会委員（高橋）
阪南市文化財保護審議委員（高橋）
奈良県大淀町文化財保護審議委員（高橋）
奈良国立博物館陳列品買取等協議員（高橋）
国立民族学博物館共同研究員（川本、角南）
奈良県民俗芸能緊急調査詳細調査員（角南）
戒律文化研究会委員（佐藤）
日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会奈良県担当委員（佐藤）
大阪市立大学客員研究員（山田(卓)）
石山寺文化財総合調査（近世文書）（水谷）

である。お札は根付や和服などと同様に、西洋人の視点から、異文化を象徴するモノとして新たな意味を見出されたといえよう。彼らのコレクションの中には廃絶したお札も多く含まれており、今となつては貴重な学術資料となっている。

また、お札そのものではないが、お札を刷るための版木はお札が出現した中世以来、使用されてきた。お札とともに、版木への注目も近年はなされている。

本展示では、このような誰もが知っているようであり知られていない、お札にまつわる世界について紹介した。

『みちー土味川独甫・土味川楡奈・徳永考衝ー奉納三人展』(入堂者数 4,175 名)

平成 24 年 3 月 3 日(土)～3 月 18 日(日) (宗)元興寺と共催

元興寺禅室

徳永考衝氏は、永年にわたり元興寺地蔵会献燈供養の揮毫を続けていただいている画家で、平成 21 年の節分会では絵馬の干支画(丑)を奉納いただき、本年も辰の絵馬をお願いした。そのご縁で徳永氏の師匠にあたる土味川独甫氏、そのお弟子さんのお一人である土味川楡奈氏の作品を元興寺に奉納いただくこととなり、この機会に禅室を利用して展覧会を行った。展覧会では、三画伯が求められ表現された「みち」を味わい、遊目のひと時を堪能できるような空間構成を試みた。

(3) 調査研究開発および研究成果の発表

① 主な論文等

狭川真一

「阿育王塔の形について」『石造物の研究ー仏教文物の諸相ー』 高志書院 8 月

植田直見、渡邊緩子

「熱分解-ガスクロマトグラフ/質量分析による琥珀の分析

ー出土琥珀の産地同定をめざしてー」 日本琥珀研究会会誌「こはく」 No. 9

角南聡一郎

「モノを図化すること」山路勝彦編『日本の人類学』関西学院大学出版会 8 月

「漂着する神仏のモノがたり」藤澤典彦編『石造物の研究』高志書院 8 月

佐藤重聖

「軀の浦弁天島石造層塔考」『芸備地方史研究』275・276 芸備地方史研究会 4 月

「中世研究の動向」『日本考古学年報』62 (2009 年度版) 日本考古学協会 5 月

「中世後期の流通と瓦質土器」『考古学と室町・戦国期の流通』高志書院 5 月

植田直見・伊藤健司・金益柱・巖那利・姜大一
『『鷹島海底遺跡出土品』の保存処理と保管環境』

Rescuing the Memory Lost in the Tsunami 2011, UNHCR Visitor's Center (ジュネーブ) 9月
金山正子

“Dry work of documents damaged by Tsunami water in Kamaishi City Hall”

第8回万葉古代学研究所公開シンポジウム「万葉集と民族学」

奈良県立万葉文化館 9月

角南聡一郎

「海と墓—瀬戸内と南島を例に—」

平成23年度浄土宗総合学術大会 大正大学 9月

三宅徹誠

「袋中と玄昉」

“Forum of The History and Reality……International Conference on Cultural
Heritage Preservation, Management and Development”

China Academy of Art, Hangzhou, 2011.10.22-23

小村真理

「Study of ancient braiding techniques throughout East Asia and their
reconstruction」

日本民俗学会第63回年会 滋賀県立大学 10月

角南聡一郎

「琉球民俗にみる外来系要素—物質文化を例として—」

全史料協全国大会 群馬県高崎市 11月

金山正子（大西愛他共同発表）

「アーキビストの海外ボランティア活動」

奈良歴史研究会 奈良女子大学 11月

佐藤亜聖

「中世都市奈良の考古学」

国立民族学博物館共同研究「日本におけるネイティブ人類学/民俗学の成立と文化
運動：1930年代から1960年代まで」 国立民族学博物館 12月

角南聡一郎

「赤松啓介の地域へのまなざし—岡山県飯岡村月の輪古墳の発掘を中心に—」

小村真理

「組紐の歴史」長崎県立壱岐高等学校 特別講義 7月

金山正子

「記録資料をまもる－災害から防災へ－」マナビー教室 地域とともにまもる文化財
亀岡市文化資料館 9月

高橋平明

「美原の美術と宗教－禅宗と律宗を中心に－」みはら歴史博物館 10月

「上田市三島神社所有の銅製御正体について」信濃国分寺資料館市民講座

信濃国分寺資料館 10月

「飯縄権現とは何か？」滋賀県立安土城考古博物館 博物館講座

滋賀県立安土城考古博物館 10月

「西大寺と四天王信仰」光明真言仏教講座

西大寺興正殿 10月

佐藤亜聖

「三原市の石造物と瀬戸内の石工」三原市歴史講座

佐木島向浦公民館 7月

「南都の繁栄」奈良市埋蔵文化財センター考古学講座

奈良市埋蔵文化財センター 11月

「五輪塔のはなし」仏教講座 西大寺 1月

「考古学から見た近世の元興寺」古文書・古絵図が語る奈良町

ならまちセンター 2月

4. その他

博物館実習の受け入れ

5月	奈良大学	5名
8月	大阪教育大学	1名
8月	追手門学院大学	10名
10月	京都女子大学	5名

見学の受け入れ

5月	筑波大学付属駒場高校	7名
5月	日本聖公会歴史研究会	25名
5月	東京藝術大学	22名
5月	橿原考古学研究所附属博物館ミュージアムトークの会	36名
5月	京都大学	11名
5月	文化財保存修復学会	20名
7月	甲南大学	12名
8月	関西大学	40名

科学研究費補助金関係

平成 23 年度科学研究費は、継続分 5 件、新規分 1 件の研究課題が採択され、直接経費 18,000 千円と間接経費 5,400 千円の総額 23,400 千円の経費配分を受けている。

また、他機関より 7 件の研究分担金、直接経費 2,030 千円と間接経費 609 千円の総額 2,639 千円の経費配分を受け、全総額 26,039 千円の研究を実施している。

以下に、研究種目毎に区分し、課題名、研究期間、研究代表者、平成 23 年度交付金額を順に記す。

基盤研究(A)海外

「日韓における保存処理後木製品の経年変化と保管管理の比較研究」

平成 21～25 年度 伊藤健司 3,100 千円

基盤研究(B)一般

「日本中世の葬送墓制に関する発展的研究」

平成 21～25 年度 狭川真一 3,600 千円

「出土木製品のマイクロ波加熱凍結乾燥法による保存処理の研究」

平成 23～26 年度 川本耕三 8,900 千円

基盤研究(C)一般

「民俗資料の塩分劣化とその対処法の研究～博物館実践型保存処理法の確立を目指して～」

平成 21～23 年度 石井里佳 800 千円

「金属成分の影響による劣化絵図面類の保存に関する研究」

平成 22～24 年度 近藤(金山)正子 800 千円

「東アジアにおける組紐製作技法の復元実験による検証」

平成 22～24 年度 小村真理 800 千円

研究分担金受入

※基盤研究(B)

「飛鳥・川原寺裏山遺跡の総合的研究－出土品から見た川原寺の特質－」

平成 23 年度 藤田(尼子)奈美枝 100 千円

研究代表者：関西大学 米田文孝教授